

(1) リニモ公園西駅周辺整備事業（仮称）

◇地区の概要

本地区は長久手町の東部に位置し、香流川とその沿いに広がる農地を軸として、丘陵地に囲まれた緑豊かな地域である。また、地域の中心にリニモの公園西駅があり、本地区を南北に貫く田名古屋線と東西に貫く青少年公園線が交差する地区であり、広域的に交通利便性が高い地域である。

万博の開催により道路、リニモ公園西駅などが整備されたが、公園西駅へのアクセス道路や駅前広場などの整備がされていない。また、市街化調整区域のため、都市基盤を活かした有効活用がされていない。

◇事業概要

本地区は、第5次長久手町総合計画において、公共交通利便を生かした土地利用を推進することとしており、平成22年3月に策定した長久手町都市計画マスタープランにおいても、市街化区域編入を前提とした新しい市街地の形成を行い、多くの人が集まる生活交流拠点の形成を目指している。

このため、駅へのアクセス道路や駅前広場などの整備により交通結節機能を強化するとともに、公共交通の利便性を生かし、商業施設の誘致や周辺レクリエーション施設と連携したにぎわい機能の導入や自然環境に配慮した環境共生型の新しいまちの創出を行い、新しい生活交流拠点の形成を図る。

◇今後の事業展開

今後、公園西駅周辺の地権者を対象に意向確認を行い、測量、地質調査などの基礎調査を行っていく予定。

(2) 長久手中央土地区画整理事業

◇事業概要

本地区は、第5次長久手町総合計画等において、商業、文化、産業等の複合機能を有する本町の都市拠点の形成を図る都市核（シンボル・コア）として位置付けられる。

このため、土地区画整理事業による基盤整備に合わせて、駅前広場（約6,500㎡）と（都）長久手古戦場駅前通り線を整備することで交通結節点機能を強化し、新たな都市核を形成する先導的な役割を担うとともに、複合拠点施設を検討（リニモテラス構想）し、積極的に「新たな顔」づくりを進めていく。

- 1 施行面積 27.4ha（市街化区域編入面積：26.2ha）
- 2 地権者数 167名
- 3 計画人口 1,710人
- 4 計画戸数 684戸
- 5 施行期間 平成22年度～平成32年度（予定）

◇進捗状況及び今後の予定

- 平成22年7月30日 設立認可
平成22年8月22日 組合設立総会
平成23年度 仮換地指定（予定）

◇平成22年度の予定事業

仮換地設計、ボーリング調査、街区確定測量、全体予備設計、土砂搬入等

- (3) リニモの利用促進に向けたシャトルバス、駅周辺施設の整備
- ・4月1日より長久手古戦場駅より沿線大学へのシャトルバス運行(長久手古戦場駅～愛知学院大、中西学園間)
 - ・長久手古戦場駅前広場バスシェルターの整備(6月19日より供用開始)

(4) リニモ活性化事業

平成20年6月にリニモの活性化及び沿線地域を始めとする町の活性化を目指し産官学民が一体となった長久手町リニモ活性化会議を設立。

今年度は、以下の事業を展開。

◇リニモde夏休み

夏休み期間中にファミリー層をターゲットに、モリコロパークやリニモを活用したイベントを実施

・7月17日(土)、7月18日(日)にリニモde夏まつり&モリコロパークお誕生会をモリコロパークで開催。

・夏休み期間中は、リニモ沿線にて各種イベントを開催。

◇リニモdeツアー

リニモ沿線施設や沿線でのイベントと連携した「体験」「学び」「交流」できるテーマ型のツアーを実施。

◇リニモdeイルミ

図書館通りを中心に街をイルミネーションで飾り、地域と連携したイベントを実施。

- ・イルミネーション
- ・オープニングイベント
- ・クリスマスイベント
- ・車内を装飾した特別列車を実施。

◇広報プロモーション事業

主に名古屋市からの誘客を意識した広報戦略のもと、新聞・ラジオなどのマスメディアや公共交通機関車内への中吊り広告、ホームページ及び携帯サイトを活用した情報の発信。

(5) 大学連携

リニモ沿線大学との連携事業。(広報ながくて平成22年7月号掲載)

学生と一緒に進める まちづくり

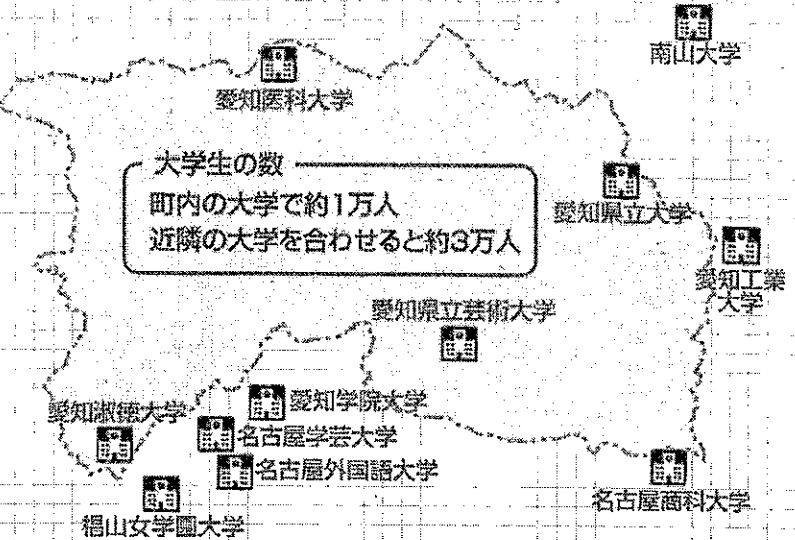
～地域と学生をつなぐ「大学連携」の取り組みを紹介します～

問合せ 企画政策課(内線256)

長久手町には、町内に4つの大学が立地するとともに、周辺地域にも多くの大学があります。町内の大学で約1万人、近隣の大学を合わせると約3万人の大学生が通う、若い活力があふれる地域です。

町では、これらの大学に通う学生の力を貴重な地域資源としてとらえ、行政や地域住民と連携して、リニモの活性化をはじめ、まちづくりの一翼を担ってもらうことで地域の活性化を図る「大学連携」の取り組みを進めています。

今回は、具体的な「大学連携」の事例を紹介します。



「大学連携」ってどんなことやっているの？

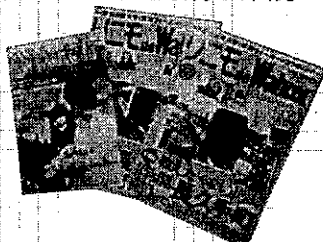
リニモ活性化の情報誌作り **H12**

愛知淑徳大、南山大

リニモの利用者は約50%が大学生の利用です。リニモを利用する大学生に沿線の魅力を伝え、もっと地域に目を向けてもらうため、大学生自身の視点から情報誌を作りました。

大学生が自ら、地域でお勧めの店やスポットを取材し、自分たちの想いをこめ、まさにターゲットとなる大学生が受け入れやすい構成としました。

この情報誌は各大学などで配布され、大学生が地域を身近に感じるきっかけになりました。



ながくてアートフェスティバルとの連携

県立芸大 **H19**

「芸大プロジェクト」として、アートフェスティバル期間中、町内各所に大学生や卒業生の制作した個性が光るユニークな美術作品などを展示したり、住民向けのワークショップを行ったりしています。

創造力豊かな大学生の若い力が集まっている町の地域特性を生かして、多くの人に芸術に親しむ機会を提供しています。



小学生とグリーンマップ作り **H21**

愛知淑徳大

グリーンマップとは、自分たちの暮らすまちの環境を世界共通の絵文字(アイコン)を用いて地図で表すという活動です。現在、世界50カ国、400以上の都市が参加しています。

大学生が企画を立案し、町内の小学生と一緒に校区を歩きながらグリーンマップを作成しています。

小学生が自分たちの住むまちの魅力を知るきっかけになる一方、大学生にとっては大学での学びを実践できる機会となっています。



愛知淑徳大学 CGC 小島祥美 講師

企画運営した学生たちは、実践からたくさんのお話を学んでいます。「活動から得た学びを漢字1字で表すと?」と聞いたところ、「新(新たな発見がたくさんあった)」、「縁(人の出会いと縁(えにし)の魅力)を学んだ」など、学生達は1字に気持ちを込めて表現していました。

長久手吹奏楽クリニック

県立芸大 **H13**

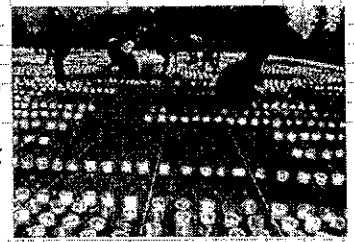
大学生が町内の中学、高校の吹奏楽部に演奏指導を行っています。受講する中学生や高校生の技術向上に加え、大学生の指導能力の育成を図っています。



リノモdeイルミでの連携 12

図書館通りのイルミネーション事業(「リノモdeイルミ」)でさまざまな大学連携が実現しました。

- ・住民自らが飾り付けした光のオブジェを展示するため、町内の小学生と一緒に作品を作りました。また、リノモdeイルミトレインの中で演奏を行いました。 県立芸大
- ・リノモ活性化の取り組みを取材し、プロモーション映像を作成しました。 名古屋学芸大
- ・リノモ活性化の提案発表をはじめ、うちわ作り、吹奏楽、ストリートダンスなどを行いました。 名古屋商科大
- ・モリコロパークに8,000個ものエコキャンドルを並べ、リノモから見えるきれいな絵を作りました。 南山大



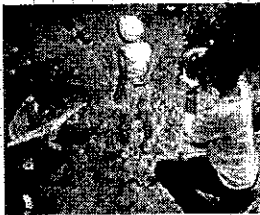
現在進行中 ▶ こんな取り組みも始めています

「広報ながくて」の表紙

写真の撮影 愛知淑徳大 1227

「広報ながくて」の表紙写真を大学生が撮影することで、広報紙に学生の視点という目新しさを加え、紙面に幅を持たせるきっかけとします。

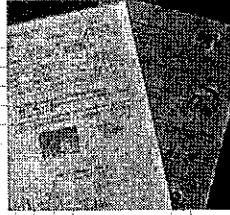
※今月の表紙写真はこの取り組みにより大学生が撮影したものです。



保険のしおりなどの

挿絵作成 1227

愛知淑徳大、愛知医大
大学生が描いたイラストなどを保険のしおりなどに挿入することで、より親しみやすい紙面を作っています。



まちあるきMAPのコラム

記事作成 愛知医大 1227

季節ごとに町内のイベントや観光スポットを案内する「長久手まちあるきMAP」の中に、大学生が、健康の話題などのコラム記事を掲載します。

図書館同士の大学連携

各大学 1228

大学の図書館と地域の図書館との連携により、長久手の自然、文化などを深く掘り下げた「長久手学」の講座などを開催します。

県立芸大と町との協定 1226

県立芸大

芸術文化の振興や地域づくりなど、さまざまな分野において大学と町が相互に協力することを目的として協定を結びました。

愛知県立芸術大学 芸術創造センター 天野武子 センター長

大学と町との関係は、開学にさかのぼり40年以上前に始まりました。この町と地域の方々に多くの学生教職員が支えられ、芸術家としてこの町に暮らし続ける人も少なくありません。

芸術分野を中心に大学と町の良好な関係が醸成されてきましたので、連携協定の締結を節目として、地域の芸術環境を豊かにすることで、町と地域と共にある大学、両者の魅力が増すことを願っています。



地元の特産品を活用した旅行商品の企画 1227

名古屋商科大

町の伝統野菜・真菜と米粉を使ったスイーツの開発を通して、地域へ観光客を呼び込む旅行商品の企画を大学生が行います。

名古屋商科大学 経営学部 竜倉正彦 教授

大学は高校から社会への橋渡しの役割を担う教育機関です。大学で学習したことは社会の場で活かすことが大事ですが、ここで地域との連携は欠かせません。

地域の声に素直に耳を傾け、どう実践すれば本当にその地域に資するのかを真剣に考え行動する力を名古屋商科大学で育てています。特に社会人基礎力育成講座では長久手町の真菜と米粉に焦点をあて、地域の農と食生活の発展を考えています。



大学の地域連携窓口を紹介します

愛知県立芸術大学 芸術創造センター

平成19年4月に設置された当センターは、開かれた大学となることを目指し、県立芸大の存在意義を国内外に広めるため、国際交流や地域連携を推進する事業を展開しています。

芸術大学としての独自性を活かして、行政や教育、福祉など多様な分野での地域連携に取り組み、芸術文化組織や非営利団体などとの芸術交流事業を、地域と共にあることを大切にしながら進めています。

愛知淑徳大学 CCC (コミュニティ・コラボレーションセンター)

CCCは、平成18年9月に開設され、学生が学外のコミュニティに参加し、地域の方々と協働する中で活きた知識を学ぶことをサポートする教育機関です。

サービスマーケティングや障がい学生支援に関する授業を開講する他、学生のボランティア活動参加などを推進し、学生が積極的に社会と関わりながら大学で学んだ知識を地域に活かせるよう支援しています。



CCCでは、学生スタッフも活躍しており、他の学生にボランティア活動紹介などを行っています。